

(進行)がん患者の病気に対する効力感尺度 (Self-efficacy scale for advanced cancer, SEAC)

◆以下の質問は、項目で示すような行動・行為を、あなたが今現在どのくらい行うことができるか、つまりあなたの「できる」という見込み感を調べるものです。それぞれの項目について、完全な自信がある場合を100点とし、まったく自信がない場合を0点として、漠然とした感覚(例えば、かなり自信がある⇒90点)で結構ですので、あなたの場合にぴったりくる点数に○をつけてください。

	全く自信がない		五分五分の自信がある						完全に自信がある		因子名	
	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1) 食べたいと思う量の食事をとることができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ADE
2) 痛みはあるけれども、日常生活をそれなりにこなすことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	SCE
3) 怒りを表に出すことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ARE
4) イライラせずに1日過ごすことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ARE
5) 夜は眠ることができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ARE
6) 前向きな気持ちを持ち続けることができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ARE
7) 急な痛みがでたときに対応できる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	SCE
8) 病気や闘病生活でたまったストレスを発散することができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ADE
9) 会話を楽しむことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ADE
10) 病気で体がだるいときに、それにうまく対応できる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	SCE
11) テレビやラジオを楽しむことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ADE
12) 病気による吐き気が出てきたときに、それにうまく対応できる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	SCE
13) 新聞や本を楽しむことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ADE
14) 不安な気持ちなく過ごすことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ARE
15) 自分で行きたいところへ移動できる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ADE
16) 痛みで寝づらくなった時に、それに対応できる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	SCE
17) 悲しいときに、悲しみを表すことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	ARE
18) 自分なりの工夫をして痛みを少しでも減らすことができる	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	SCE

採点方法

以下の下位因子それぞれについて平均点を算出する(100点満点)。どこの項目がどの因子にあたるかは、項目横の因子名の略称を参照とすること。因子間相関が一定して高いので、尺度全体の得点を「自己効力感得点」として算出することが可能である。

情動統制に対する効力感: ARE: Affect regulation efficacy	3) 4) 5) 6) 14) 17)
症状コントロールに対する効力感: SCE: Symptom coping efficacy	2) 7) 10) 12) 16) 18)
ADL(日常生活動作)に対する効力感: ADE: ADL efficacy	1) 8) 9) 11) 13) 15)
病気に対する自己効力感: Total self-efficacy: SE	